

【北海道駒ヶ岳】

北海道駒ヶ岳（通称 渡島富士）は、道南の渡島半島 東部、内浦湾南岸にそびえる成層火山で、現在も活動中の活火山です。七飯町・森町・鹿部町の3町にまたがり、剣ヶ峰（1131m）・砂原岳（1113m）・隅田盛（892m）の3山で構成されています。

活火山の為、入山規制が行われており、2021年現在、登山可能な区域は赤井川登山口（森町）から馬の背（標高約900m）までとなっています。

《北海道駒ヶ岳の見え方いろいろ》

大沼公園から見る、切り立った剣ヶ峰とならかな砂原岳は、眺める場所により全く別の形に見えます。ドライブや列車で山を一周することも出来るので、見え方の違いを楽しんでみては。



森町道の駅から望む駒ヶ岳



鹿部町本別から望む駒ヶ岳

【駒ヶ岳の噴火の歴史】

大昔の駒ヶ岳は、富士山の様に整った形をした山であったと言われています。堆積した噴出物から、駒ヶ岳は10万年前から活動を開始し、現在までに20回以上の軽石噴火と3回以上の山体崩壊を起こしていたことが分かっています。

江戸時代、1640年の大噴火では、東（鹿部）側に崩れ、一部が噴火湾になだれ込み津波を引き起きました。軽石の降下、火碎流も発生し、被害も甚大でした。

その後、1694年、1856年、1929年と大噴火を繰り返し、1929年（昭和4年）の噴火では軽石噴火が14時間も続いたと言われています。鹿部市街では家屋・家畜・耕地・漁場に大きな被害が出ました。

最近では、1996年から2000年にかけて水蒸気爆発がありましたが、小規模な噴火で被害は少なく、それ以降、目立った火山活動は確認されていません。

【登山道の様子】



← 6合目登山道入り口

設置の入山届に記入・投函したら登山スタート！山頂へ近づくに従い険しい道となります。トレッキングシューズやストックのご準備を。ゴールの馬の背までは約2km（1時間～1時間半ほど）簡易トイレは6合目のみにあります。

6合目休憩所 →

スタート地点からやや登った右手にあります。この先の登山道には、ベンチの設置はありますが、木陰はほぼありません。



← 登山道の様子

軽石や砂の堆積した登山道は大変滑りやすく、大雨の後などには亀裂が生じることがあります。足元に十分ご注意ください。下山の際は特にケガをし易いのでご注意を。



8合目付近から 大沼・小沼を望む →

7～8合目付近まで登ると、背後には大沼・小沼が見えてきます。快晴の日は函館山まで望めることも。9合目付近からは勾配もかなりキツくなりますが、あともう一息！深呼吸しながらゆっくり行きましょう！



← 馬の背（ゴール！）

お疲れ様でした！振り返ると豪華の絶景が広がっています！剣ヶ峰・砂原岳・隅田盛の案内看板とベンチが設置されています。休憩やランチをどうぞ。この先は規制ロープがあり、立入り禁止区域となります。



【登山道を彩る植物】



シラタマノキ（実）



ベニバナイチヤクソウ



オオウメガサソウ



イワギキョウ

「撮つていいのは写真だけ、
残していいのは想い出だけ。」

自然公園での高山植物・その他の指定植物の採取は自然公園法第20条第3項第11号において禁止されています。希少な植物の保護の為、何卒ご協力をお願い致します。

また、ゴミは必ず各自で持ち帰りましょう。



イワブクロ



紅葉の駒ヶ岳山麓（カラマツ）

駒ヶ岳登山道で見られる花・植物

- 6月上旬～・・・ベニバナイチヤクソウ、タニウツギ
7月中旬～・・・イワギキョウ、イワブクロ、オオウメガサソウ
8月・9月頃・・・ヤマハハコ、シラタマノキ（実）
10月中旬頃・・・カラマツの紅葉